

所属・資格 総合文化研究室・准教授

申請者氏名 グティエレス ティモシー

研究課題		第2言語の流暢性を発達させるための環境：有効性と経験
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>第2言語の流暢さを実現することは、世界中のカリキュラム、特に日本の大学のカリキュラムの目標です。第2言語の流暢さを向上させるために、多くの教室ベースの方法論が提案されています。さらに、コンピュータベースの技術は、教室と自習方法の両方を強化するために提案されています。しばしば、第2言語の流暢さを向上させる目標は、目標言語が使用されている国で目標言語のネイティブスピーカーと、学習、仕事、レクリエーションなどに関してコミュニケーションを促進することです。</p> <p>この研究プロジェクトを通じて、私は第2言語の流暢さを向上させるために設計された3つの重要な領域を調査します。まず、教室の環境を調査します。次に、コンピュータベースの技術を調査します。第3に、海外留学プログラムを調査します。これらの方法の有効性を調査することに加えて、私はこれらの努力に携わる学生、教師、および管理者の経験を調査します。</p>
	研究の結果	<p>まず第一に今年、私は多読リスニングトレーニングが参加者のリスニングの流暢さをどのように改善できるかについての研究プロジェクトを続けました。まず、コンピューター支援による多読リスニングに参加した1年間の参加者の反応に関するデータを収集しました。以下の定量的データが参加者から収集されました。4月と1月に、リスニングとリーディングの能力テストのスコアを収集しました。プロジェクト期間中に、(1) リスニングに費やした時間 (2) 聞いた単語の数 (3) 理解度テストの点数</p> <p>第二に、2018年の多読リスニングに従事した参加者のデータの分析を開始しました。</p>
	研究の考察・反省	<p>この研究の最終目標は、英語の流暢さを処理する能力を持った英語学習者を増やすことです。つまり、英語学習する日本人学習者が英語をより迅速かつ楽しく学習できるようにすることです。まず、今年私が収集したデータは、参加者が多読リスニングに従事し、理解レベルに簡略化されたオーディオブックを聞くためにコンピューターテクノロジーを使用することに対してバランスが取れているという証拠を示していました。第二に、研究を管理している間に書かれた反省ジャーナルの分析は、他の研究者が技術が常に期待どおりに機能するわけではないことを認識すべきであることを示しました。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>全国語学教育学会 (JALT) 教師効力感、学習者主体全国語学教育学会・第45回年次国際大会教材展示会 Implementing EL: Lessons Learned Over One Year 2019年11月02日 / 名古屋</p>	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>全国語学教育学会 (JALT) 教師効力感、学習者主体全国語学教育学会・第45回年次国際大会教材展示会 Toward an X-Reading User's Group 2019年11月03日 / 名古屋</p> <p>Japan Association for Language Teaching - West Tokyo January Chapter Meeting Implementing Extensive Listening with XReading 2020年01月19日 / 東京都日野市</p> <p>The 22nd Temple University Applied Linguistics Colloquium The First Year of an Extensive Listening Curriculum: An In-Progress Report 2020年02月09日 / Temple University Japan</p>	